

## 第6回 加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和5年3月27日（月）9時00分～11時10分

場 所 市民会館（中央公民館）視聴覚室

委 員	委 員 長	松岡 広路
	副委員長	谷勝 公代
	委 員	岡本 教穂
	委 員	藤本 文俊
	委 員	櫻井 臣義
	委 員	岩佐 文雄
	委 員	国田 徹也
	委 員	植田 美紀子
	委 員	菅野 将志
	委 員	達可 有呉
	委 員	泉 育代
	委 員	藤田 亮
	委 員	大藤 由美
	委 員	前田 恵美
職 員	教育長	民輪 恵
	教育部長	千石 剛
	生涯学習課長	北島 悦乃
	生涯学習課課長補佐	高見 和哉
	生涯学習課	近藤 優佳

### 1. 開会（事務局）

### 2. あいさつ（教育長）

おはようございます。今日は年度末のお忙しいところ、お集まりくださり、ありがとうございます。

本日、市職員の人事異動に関する発表がありました。今年は、市長が代わられますの

で、最低限の異動に留められていましたが、公民館に関する人事としては、再任用期間満了に伴い2名退任となりますので、公募し、4月からは新たに2名の館長が着任されます。不慣れで不手際もあるかと思いますが、それ以上に新しい発想で取り組んでほしいという思いを込めています。皆さん、新しい公民館長を応援していただきたく、よろしく願いいたします。

また、市内小中学校と公民館（中央を除く）、オークタウン加西にSTEAMラボが設置されました。学校の場合は、DXに積極的な先生がいろいろと考えて動いてくださっていますので、大きく変わっているように思います。しかし、公民館やオークタウン加西は職員が2、3名しかいないこともあり、今のところ、変化が見えていないところです。

公民館やオークタウン加西のSTEAMラボでは、学校でできないことをすると、子どもたちやその保護者も来るようになると思います。海外の研究所と結ぶなど壮大な夢も考えられます。そのことで、公民館等を活性化したいと思っていますので、皆さん方もアイデアがありましたら、ぜひ教えていただきたいと思います。

このあり方検討委員会は、短い期間に何回もお集まりいただくことになり、申し訳なかったと思っておりますが、基本計画の完成を楽しみにしております。そして、これは貴重なものだと思っておりますので、実現に向けて頑張りたいと思います。

### 3. 計画書の最終確認

(委員長)

皆さん、おはようございます。

前回の会議から少し期間が空いてしまいましたが、この間に副委員長、事務局とともに、何とか計画書を形にできたのではないかと思います。今日は、基本計画の最終確認として、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

計画書は、これから先、現場に関わっていく人たちが物事を進めていくうえで、一つの方向性として考えていただくようなものにしましたので、やや抽象的なところもあります。もっと具体的なものが出ていたというご意見もあろうかと思いますが、概ねの枠組みとして、ご検討いただければと思います。

それでは、冒頭から順番にご意見を賜りたいと思います。

～「はじめに」「I 社会教育施設の現状と課題」について説明～

(委員A)

これで問題ないと思います。

(委員B)

会議で出てきた問題点をきっちりとまとめてあるなど感心しました。

～「Ⅱ社会教育施設の近未来」について説明～

(委員C)

会議で出された意見をほとんど挙げていただいているので、理想ということで考えるのであれば、これでいいのではないかなと思います。

(委員長)

あくまでも理想というところは、ありますか。ただ、何かをしていくうえで、理想をいつも意識しておかないと、できるものが限られて、夢がなくなってしまうのです。

(教育長)

どうしても現実を見がちですが、その上にある理想が表明されないと、そっちに向かって行こうとしないので、理想を表明することは大切ですよ。

(委員D)

先ほどの区長さん方と同じで、まとめてくださっていると思っております。

ただ、一つ気になっていることがあるので申し上げます。オークタウン加西の未来像「I『加西に帰りたい』をサポートする場に」で「加西出身者がお墓参りや地域行事などで帰省するときに」とありますが、加西から出られた方が帰って来られるのは、ここに書かれているとおり、お墓参りや地域用事であると思う反面、お墓参りを前面に出しているものかと感じました。だからといって、他のいい言葉は思いつかないのですが。

(委員長)

より表現の抽象度を増すという手はあります。例えば、「加西出身者が、現在住んでいる人たちとともに気安く利用できる施設になってほしい」という言い方をすれば、読み手はいろいろなパターンがあると解釈できるわけです。

原理原則論を書きすぎると、読み手があまりリアリティを感じられないと思い、地域行事やお墓参りを例として入れてみました。しかし、それが反って自由な発想を狭めてしまうのであれば、削除してもいいと思います。

(委員G)

例えば、「加西出身の人」を「加西市にゆかりのある方」「加西市にこれからゆかりができる方」という表現にすれば、より読みやすくなると思います。

(教育長)

地域でまとまることは大切なのですが、加西は、加西だけでまとまるという雰囲気が強すぎると感じています。今は、多様性の時代ですので、加西出身の人だけが施設を使うというニュアンスの表現は良くないと思いました。

(委員B)

お墓参りはかなり個人的なことなので、具体的な例を書くのであれば、同窓会など人との繋がりを感ぜられるようなことの方がいいのではないかと思います。

(委員長)

今のご意見を踏まえて、「住民と加西出身の人たち」という部分を「住民と加西にゆかりのある人たちや関心をもってくれる人たち、あるいは加西出身の人たち」という表現に変え、「お墓参り」という言葉は削除するということによろしいでしょうか。

実は、今ご指摘された部分には、矛盾が生じているのです。冒頭では、「H青少年の探求的な活動を支援する場に」という理想像が入っているのです。誰でも利用できる施設にすることは簡単なのですが、それを出しすぎると、小学校の体験学習や地域の人たちが利用したいときに、空いていないということになりかねません。

しかし、地域外の人たちにもうまく利用してほしいということであれば、その塩梅が取れるかどうか重要になります。これは、なかなか表現をしづらかったところなのですが、戦略のところでは、結局は、職員やそれを見守る人たちの体制をきちんと作らない限り、塩梅は保障されないというニュアンスを入れています。

(委員K)

計画書はとても美しくまとめられてきて、公民館職員としては、これを指針としてこれから頑張っていきたいと思います。

少し話が逸れるのですが、理想像のところだけ数字ではなく、アルファベット表記になっているのはどうしてなのでしょう。

(委員長)

1 2 3のような数字を使う時は、これが一番大切だという意味が込められています。一方で、アルファベット出すときは、これらがどう組み合わせさってくるかに価値があります。ここでは、どんな言葉を作りますかというニュアンスを込めて、意図的にアルファベットを使っています。

また、「IV未来に向けた戦略の整理」では、理想と戦略の紐づけをしています。その時に、理想と戦略の区別をしやすくするという意図もあります。

(教育長)

先ほどのオークタウン加西の話ですが、私は、オークタウン加西は基本的に開かれた施設にしたいと思っています。良い講座を開くのであれば、小野市や加東市など市外からもどんどん来てほしいと思っています。加西の子が、新しい体験をしながら、様々な地域の子どもたちと交わり、広がりを持っていく場所にしたいと思っています。

(委員長)

教育長のご意見は理解できるのですが、加西市内には様々な教育施設や市民文化活動施設がありますよね。その中で公民館とオークタウン加西がどのような役割を持つべきなのかを考えたとき、他施設と異なり、地域住民という利用者のメインターゲットがいるという前提を、まずは一つ持つということです。その前提と、他の地域やネットワー

クで繋がる人たちが出会う場になってほしいと思い、ここはまとめています。

例えば、私は、神戸大学の学生を連れて来て、オークタウン加西を実際に使わせていただきました。非常に良くしていただいて、とてもいい施設だなという感想を持ちました。そこで、地域住民と触れ合うことができると、さらに良いのではないかと考え、実験的にまち歩きプログラムをさせていただきました。すると、鴨谷町の人たちが、何かと協力をしてくださって、いろいろな可能性が出てきたのです。やはり、地元にある施設という特性を活かしながら、住民が地域外の人たちと触れ合うことができるのが加西にある施設の意味だと思うのです。

(教育長)

もちろん、それは大前提ですが、先生方も外から来て地元の人と触れ合い、いいなと感じてくださったのだと思います。なので、閉じられた空間というようなニュアンスは、なるべく出したいくないというのが私の思いです。

(委員長)

その部分を感じ取られましたか。

先ほど、委員Kからアルファベットの意味を問われましたが、まさにここは混在しているのです。たとえば、「J加西から地球を感じ考える研修の場に」は、教育長がおっしゃった内外の繋がりを生み出す拠点になってほしいというオープンなイメージです。しかし、それを前に出すのか、後ろに出すのかについては、考えないように作っています。H I J、それぞれの目的と対象に合わせて、未来図を書いているのだとご理解をいただければと思います。

従って、プレゼンテーションをしたり、オークタウン加西を具体的にどう変えていくかの施策をしたりする際には、どれを中心にしたかを言った方がいいのかもしれませんが。

皆さんのお考えの違いもあることは分かっていたつもりですが、それらをあえて、一つに統一するのではなく、要素として三つ挙げているということです。

(委員F)

「H青少年の探究的な活動を支援する場に」の説明のなかで、「学校で行われる探究的な学習～」とありますが、これが、オークタウン加西は学校ではできないところを補う場所というふうに読めてしまいました。学校の延長線上にあるのではなく、社会教育というもっと大きな枠組みで書いてもらってもいいのかなと思いました。

(委員長)

私自身、オークタウン加西を使っている子どもたちのグループや、それを支援する団体の方から直接お話を聞いて、すごくいいなと感じました。そういう団体が使えなくなる施設にはなってほしくないという気持ちがあります。

(委員F)

今は、子どもたちに体験活動が不足していると思います。家庭や学校でできない体験活動をオークタウン加西中心にできるよう、開かれた施設になってほしいと思います。

(委員A)

愛媛県松山市にある高校が、合宿でオークタウン加西を使いたいということでしたので、その連絡をしたところ、快く受けていただきました。

私は、市外の方は施設を利用できないと思っていたので、利用できるのであれば、それを明記していただいて、利用の促進をすることはすごく大事だと思いました。

(委員長)

これに関しては、かなり現実的なイメージで書きました。加西市には、体験活動やスポーツ活動をのびのびとできる、意図的に作られた空間はオークタウン加西しかないと思ったのです。お金で交換できるサービスとして、設定されてない施設なので、住民は気楽に使いやすいのです。

しかし、市外の方が多く利用するようになった場合、使用料が高くなります。議会で、地域住民の役に立っていないのであれば、有料化したらどうかと言われれば答えられなくなりますので。私はそれに抵抗できなくなる自治体を目の当たりにしてきましたので、そうならないようにという願いもあり、あまりオープンに書いてないところがあります。

もちろん、オープンにできる余地を残すように書いていますが、よりその方向に書き直すことはできると思います。

(教育長)

私自身、外から帰って来て、加西はある意味で閉鎖的なところがあると感じています。ですので、それを打破していくところが、もう少し見えてほしいという思いがあります。

市外の人を多く受け入れることで市内の人が使えなくなる不安があるなら、きちんと対策をすればいいことです。方法はいろいろとあるわけですから、方向性としてはもっとオープンな場所にすべきだと思います。

(委員A)

この間、富田小学校に行かせていただいた際、大学との繋がりでもオークタウンを利用して宿泊をさせていただいたという話を聞きました。そういう発想もいいなと思います。

(委員長)

先ほど、序列はないと言ったのですが、「J加西から地球を感じ考える研修の場」が前に書いてあれば、随分印象が違うかもしれません。

「I『加西に帰りたい』をサポートする場」の中には、オークタウン加西が、加西を好きになる拠点になってほしいという願いがあります。そこのあたりを修正するということやってみましょうか。

(委員J)

少し残念なのは、「J加西から地球を感じ考える研修の場に」が、公民館の未来像に入っていないところです。私が勤めている善防公民館は、芝生広場もあり、とても風光明媚な場所です。オンラインを使った勉強会の拠点になることもできるかと思いたいで、これは公民館とオークタウン加西に共通する未来像かなと思いました。

また、文末が「なってほしいものです」となっているところが多いように思いました。地域や学校と協力・連携しながら取り組んでいくという意味もあると思うのですが、こちらが仕掛け側、行動する側ですので、この表現が少し気になりました。

(委員長)

教育委員会事務局、あり方検討委員会を主語として書いたつもりです。ただし、我々ですべてを行うわけではなく、いろいろな関係者の方たちと協力して作り上げていきたいという願いを込めています。

行政と一緒に取り組む方針を作っているの、ある意味では国家的な書き方をせざるを得なくなっているところがあります。「する」という宣言でもなく、「してほしい」という理想でもないの、違和感があるというのは、おっしゃる通りだと思います。

(委員E)

私は、ここで協議したことがストレートに伝わってないという感覚と同時に、現状もまだあまり伝わってないのかなと感じました。

「Gまちに学びが波及する起点としての公民館を」で、「発表・公開の機会がたくさん生まれてほしいものです」とありますが、年に1回ですが、既に発表会を行っております。公民館で活動されている方は、主に60代から80代の方ですが、発表会に来られた方は、その素晴らしい作品に驚かれます。これを読むと、勝手に自分たちで楽しんでいるだけじゃないというように読み取れました。

(委員長)

私は、加西市の公民館の活動も実際に見ましたし、よく知っています。

(委員E)

やはり、PRするのが下手なのでしょうか。

(委員長)

そういうことです。PRするのが下手というだけではなく、日常的に公民館活動に触れる機会がほしいということを皆さんと議論したつもりです。

私も公民館まつりや発表会に行くと、とてもすごいなと感じます。それがもっと日常的に、いろいろな人に知ってもらう機会がほしいという趣旨で書きました。

そういうふうに読めないとすれば、どこをどう直したらいいのでしょうか。発表・公開の機会を「さらに」たくさんとでも入れておきますか。

(委員E)

発表会を実施するには、公民館職員もそこで学んでいらっしゃる方も大変な労力が入ることは事実です。なので、私たちは、大げさな発表会ではなく、郵便局や公民館のフロアに月ごとの絵手紙を掲示しています。たくさんと言われると、私たちは、少しでも皆さんの目に触れるように頑張っているのにと感じてしまいました。どういう方法があるのかは考えていかないといけないと思っていますのですが。

(委員H)

登録グループによって温度差はあると思うのですが、先生が書いていらっしゃる「機会がたくさん」というのは、これまでの一元的な展示の方法ではなく、STEAM ラボを活用するなどの方法も使って、機会を増やすという意味だと思います。私は、「たくさん」というこの言葉に先生の思いが含まれていると感じました。

(教育長)

「生まれてほしいものです」だと、今はないと言われているように感じてしまうのですよね。

(委員E)

そうですね。頑張っているのに、という思いがあったものですから。私も「たくさん」というところの意図があまり理解できていなかったところがありましたね。

(委員長)

もちろん、私もそちらの見方です。

あえて誤解を解くつもりで言えば、公民館がこれまで一生懸命活動されてこられたことは、公民館訪問や公民館まつりの参加を通して、強く感じるどころでした。

加西市は教育長が一生懸命、社会教育行政に取り組んでくださっているので、そこを維持して、さらに発展させるためにはどうしたらいいのか。さらに、質が変わることも求められる中で、この基本計画を作っているというところをご理解ください。

(教育部長)

「生まれてほしいものです」だと、今はないような印象を与えるのはよくわかります。

例えば、発表・公開の機会の「拡充、拡大につなげたい」という表現にすれば、今もあるところの、そのさらなる発展を目指すという受け止め方に変わるかと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員G)

もしくは、主語を変えて、日常的に目に触れるような雰囲気はどうやって作っていくかということかと思います。

今は、公民館活動にふれることが非日常ですので、それをいかに日常に近づけるかというところが大切かと思います。

(委員J)

また、「ほしいものです」のほかに、「目指します」というような文末表現もあり、混在しているのかなと思いました。

(委員長)

これは、混在しているのではなく、使い分けをしています。「目指します」は、「ほしいものです」より、強い表現になります。「ほしいものです」は、これから皆さんの協力を得て、緩やかにそちらの方向を向きましょうという意味合いが表現されています。

(教育長)

全体的に「ほしいものです」という表現が多いと感じました。それは、先生の思いか、委員会の思いかどちらでしょうか。

(委員長)

委員会です。行政側の立場で書くなら、このような曖昧な表現を使うわけにはいかないでしょう。

(委員K)

計画書の表紙に「加西市教育委員会」と書いてありますが、加西市教育委員会から誰に向けての提言になるのでしょうか。

(教育部長)

このあり方委員会の意見を踏まえて、教育委員会が市民に対して示すものです。

(委員K)

市民に対してであれば、私はこの表現でいいのではないかと思います。

(委員長)

私もこの会の委員長を引き受けたときに、その辺りの立場を理解しないまま入ったので、皆さんに混乱を与えてしまったところがあったと思います。

あり方検討委員会は社会教育をどのような方向に変えたいかを教育委員会とともに考えるために組織され、計画書は今後の取組を市民に宣言するものだと理解しています。

(教育部長)

「～になってほしい」「～につなげたい」、表現が違うだけで、同じこと言っているのですよね。文末の処理の話だけなので、如何に処理をするかという話かと思います。

(委員長)

「ほしいものです」は、一緒に取り組む感じがしないということでしょうか。もっと我が事として考えている文章になるよう、文末を何とかします。

他の修正点は、「J加西から地球を感じ考える研修の場に」と「I『加西に帰りたい』をサポートする場に」の順番を逆にするのと、Iの内容を加西出身者以外もターゲットにするような内容に変えることですね。

～「Ⅲ社会教育施設を未来に向けて発展させるための戦略」について説明～

(委員J)

「⑥屋外イベントの開催」で「名義貸し」とあるのですが、正しいイメージ伝わりづらいので、「後援」という言葉の方がいいのではないかと思います。

(委員長)

名義貸しは、住民が何かイベントをする時に「〇〇公民館協力」と入っていると、そうでないのとでは、随分印象が違いますので、気楽なイメージで使いました。

それでは、ここは「備品の貸し出し、広報・宣伝の支援、その他後援・協力など」に修正させていただきます。

(委員E)

「⑩施設バリアフリー化の促進」について、手すりやスロープの設置であれば、施設を大きく変える必要がないと思うのですが、なぜ中長期的戦略なのでしょう。

(委員長)

これはタイトルが、誤解を招くのかもかもしれません。一番言いたかったことは、その後にあるように、当事者性の高い人によるバリアフリー検討ワーキンググループを組織し、より必要とされているバリアフリーや合理的配慮の提供について検討していくことなのです。タイトルを「施設のバリアフリー化に向けてのワーキンググループづくり」というように変更しましょう。

(委員I)

「STEAM <sup>ラボ</sup>」について、現在、教育委員会内で表記の仕方を統一していますので、「STEAM Labo.」に変更をお願いしたいです。

また、その注釈について、「STEAM教育を推進するための専用教室」ではなく、「探求的な学びを推進するための空間・場」という表現にしていきたいと思います。

(委員長)

STEAM <sup>ラボ</sup>の表記については、ロゴ的なので注釈に「本市では、STEAM Labo. と表記する」と入れさせていただきますでしょうか。

(委員F)

「②各公民館に社会教育士の資格を有するなど、専門性の高い職員を配置・育成」のところで、社会教育プロデューサーと「協働」という言葉が少し引っ掛かりました。生涯学習課にいる社会教育プロデューサーと公民館にいる公民館コーディネーターは立場が似ているので協働より、「連携・協力」の方がいいと思いました。

(委員長)

社会教育プロデューサーは、行政職員として一般行政のことも調整しながら、加西市の社会教育が円滑に進むように調整をする人です。一方で、公民館コーディネーターは、

住民、あるいは利用者の立場に立って、自立して動く人です。この対等性をやや担保するような意味で協働を使っています。

しかし、これを説明するには注釈がかなりいるでしょうし、協働というのは、NPOとの関係で使うことが多いので、連携・協力に直しましょう。

(委員J)

「④『公民館ボランティア』の活躍の場づくり」について、登録グループの方が既に公民館と連携してボランティア活動を行っているのですが、新たにボランティアを募るという意味でしょうか。

また、ボランティアなので、考え方としては無償だと思のですが、はっきり「公民館ボランティア」という名称で呼びかけて、組織化するというのでしょうか。

(委員長)

登録グループでお手伝いをしてくれる方たちに対して、「公民館ボランティア」という名称を別途与えるというイメージです。

組織化については、そのとおりです。

(委員J)

公民館ボランティアは、職員・住民を励ましてくださるだけなのか、公民館の企画などにアドバイスをいただけるのか、その辺りの位置付けも気になりました。

(委員長)

ボランティア活動を長く成立させるためには、お互いの意見や考えを調和させることが必要です。まず、こちら側から期待することは職員や住民を励ましてくださることです。提案をしてもらいたいというのものもあるかもしれませんが、それは副次的な効果にしておかないといけないと思います。

また、ボランティアに対しても、意味合いを深く込めているつもりです。職員研修の中では、ボランティアは、意志を持っている人で、そのすり合わせを行いながら活動を作るということを理解してもらわないといけないと思っています。

(教育長)

やりたいことのある人が公民館ボランティアになる可能性が高いと思いますが、それを提案するのはいいことだと思います。

(委員J)

公民館ボランティアは、公民館を良くしていく志を持っている応援隊のような方だと思うので、そのあたりが通じて「励まし」という言葉で括ってあると理解しました。

ただ、職員・住民を励ましてくださるという言葉だけではなく、もう少し補足があればいいなと思いました。

(委員長)

正直に言うと、私は、公民館ボランティアが公民館の動きを変えるというような刺激的なイメージをもっておらず、職員・住民を励ましてくださるというイメージでした。何という言葉を追加するのがいいでしょうか。

(教育長)

動きを変える可能性があるということは残しておかないと、住民参画にならないです。

(委員長)

ここには新しいものとして出されていないのですが、本来、住民が参画する仕組みは結構あります。いずれにせよ、そういったニュアンスを入れてもいいということであれば、修正をしたいと思います。

(教育部長)

公民館ボランティアの具体的な活動がその後で述べられているので、ここで何らかの表現を必ずしも入れなければいけないことはないと思います。入れるとすれば、公民館ボランティアに期待したいことは、「応援団的役割で、具体的には～」とつなげるなどでしょうか。

(委員長)

なるほど。ただ、応援団的にと言うと注釈が必要になると思います。

あるいは、公民館ボランティアに期待したいことは、「公民館の理想の実現に向けて～」といえ、より明確になりますかね。

(委員J)

私は、励ましてくださるというところに少し引っかかっていたのですが、先ほどおっしゃったようにつなげていただければ、問題ないと思います。

(委員F)

「公民館ボランティア」という名称は、一般的によく使われるものなのでしょうか。これを読んでいると「サポーター」のように感じました。

(委員長)

サポーターというと、励ます意味合いが強くなるので、あえてボランティアとしています。人との関わりを作り上げて、活動を引き出していくという面白さも込めて、この公民館ボランティアという言葉をつけています。

また、ボランティアの方が、意見を言ったり拒否したりと自由に活動ができるのです。たしかに、機能はサポーターなのですが、サポーターだと、任期制や任命制になり、拒否権が行政側にあるようになります。あえて、ボランティアという名称にして、住民の志を侵食しないという行政側の構えでもあります。

他にもお気づきになることがありましたら、事務局にご一報いただいて、あとの修正

は、私と副委員長、事務局にご一任していただくということによろしいでしょうか。

この会議は、今年の8月から始まり、今日で最終回です。皆さんにご協力いただいたおかげで、半年で何とか作り上げることができました。しかし、未完・不足の部分もありますので、今後、社会教育関係者の方々と一緒になって、しっかり作っていきたいと思っています。

文字で残しておく、今後、議論をすることができるかと思っておりますので、そんな役割も果たしてくれたら嬉しいと思っています。

最後に副委員長からも一言お願いします。

(副委員長)

年に1回の公民館祭りは、とてもすばらしいものなのですが、それに関わる人たちの、疲弊・不満が、今すごく表面化してきております。皆さん、責任が重過ぎるということをおっしゃっていますので、それをどう分散するかですね。最後は、楽しかったとなっただけだと思うのですが、その過程が余りに負担であれば、消極的な方へ向いてしまうこともあるかと思っております。活動をされているのは、60代半ばから70代の方が大半ですので、その辺の思いやりも早急に必要かと思っております。

あと、この度あり方検討委員会に入らせていただいて、公の文書としてどのような言葉で伝えるかという言葉の難しさも教えていただきました。どこへ出されるかによって表現が異なることも学ぶことができました。皆さん方もそうではないかと思っております。

また、加西市の大切な社会教育施設を、どのように託していくかということに関わらせていただくことができ、本当に幸せでございます。

どうもありがとうございました。

#### 4. 閉会（事務局）

(教育部長)

半年程度の短い期間でしたが、委員の皆さん方には何度もお集まりいただき、ありがとうございました。

まだ議論の余地がある部分は修正いたしますが、これを令和5年度から直ちに動かしていくことが我々の務めだと考えております。

それにあたり、松岡先生には、もうしばらく加西市と関わっていただきたいと思っておりますので、今後ともご支援・ご協力のほど、よろしく申し上げます。

また、委員の皆様も、これからの動きを、少し長い目を持ちながら見守っていただき、助言・アドバイスがあれば、何なりとお伝えください。どのような話でも構いませんので、遠慮なくお伝えいただければ、こちらも助かります。

どうもありがとうございました。